

特集

photographs by Miriam Guttmann text by SOTOKOTO

ヨーロッパの
ローカルを訪ねて、
未来の日本の
ヒントを探す旅！

Local
Design
in
Europe

ヨーロッパの カル・デ・ザイン街



アムステルダムにある『デ・ク
ペル』は働く場所として最高な
だけでなく、美味しいごはん、す
きな人びと、リラックスできる
雰囲気も備えているのでソーシャ
フレイスとしてもすばらしい！

ヨーロッパでは、より良い生活を送るために
人びとはどんなふうに協力し合っているのだろう。
ヨーロッパにはどんなコミュニティがあるのだろう。
この特集はそんな疑問から始まった。

ヨーロッパのコミュニティといえば、
どこも大きくて官僚的なイメージがあった。
しかし、この11月号ではもっとローカルなレベルで、
さまざまな人びとが喜びや

困難に遭遇しながら生きている日常をひもときたい。
もちろん”ローカルコミュニティ”とは何か、
というは場所や状況によって異なるけれども、
人びとが社会全体の目的のために

力を合わせるという本質は共通している。

この後に続くページでは、
8か国からの多種多様なストーリーをご紹介。

人びとが直面している課題に取り組み、
もっと充実した生活を送るためのヒントが
ちりばめられている。
社会をよくしようと努力する時に、
みんなにできること。
さあ、この旅と一緒に参加して、
そこからインスピライアされて！





上／運河の上のフローティングガーデンは、大勢の人の手によって2日間で完成した。今でも、メンテナンスなどをしにいろいろな人が手伝いに来る。夏は水場で泳ぐ人も多数。
下／仕事の合間に重心に帰ろう。子どもも大喜び。





廃材を元にアップサイクリングを行う会社「クレンデ・ヘレン(Creerende Heren)」もメンバー。多機能性があることで面白いもの生まれる。カフェの料理は機力自給自足している。レモネードも、すべて自家製。お客様は、最初からイベントやカフェに興味を持ち、来てからこの特別なサステナブルな環境について知る場合がほとんど。



常に変化し続ける、サステナビリティの実験室。

も、「できること」に焦点を当てて、前向きに解決策を探すことが大切です。サステナブルな環境を追求しているからといって、特別何かを我慢したくはありませんでした。」

ボートの屋根につけられたソーラーパネルは年間3万2500キロワットの電気を供給する。それはオフィスの暖房と必要な電気を賄うのに十分だ。

また、元々そこまで水を必要とする構造ではないため、一般的なオフィスに比べて水の使用量は25%ほど。コンポストトイレは水が不要だし、

下水道がないため、シンクの水は直接地面に流れれる。さらに、通過した雨水を飲み水として試験的に提供もしている。

現

在

取り

組ん

でいる

のが、暖房を

タイマー設定できるよう

にすること。

より効率的にエネルギーを使い、よ

り快適に過ごす環境を整えるために

は、みんな労力や協力を惜しまない。

そんな團結力はコミュニケーション

開

き

氣に表れており、ここには小さな

村のような家庭的な温

感が漂う。

「オフィス 자체が開かれたつくり

になっているうえ、入り口を開けつ



泳いた後は、
カフェでリラックス。



上／左側の未改装部分を、いずれはB&Bのような宿泊施設にしたいと考えているそう。
右下／廃材自体がクリエイティブなので、アイデアも生まれる！
左下／週末のイベント時には多くの人が訪れる。